使い方の手びき

《取扱説明書》

TYPE 550

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

絵表示の例

⚠	⚠記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
⊘	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

⚠警告 感電・火災の恐れがあります。

一般家庭用　交流電源 100 V でご使用ください。

以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠注意 感電・火災・けがの原因となります。

お客様自身での分解はしないでください。

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
【禁止】

曲がった針はご使用にならないでください。
【禁止】

針及び押さえは、確実に固定してください。
又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。

ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。

以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき
・上糸・下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき

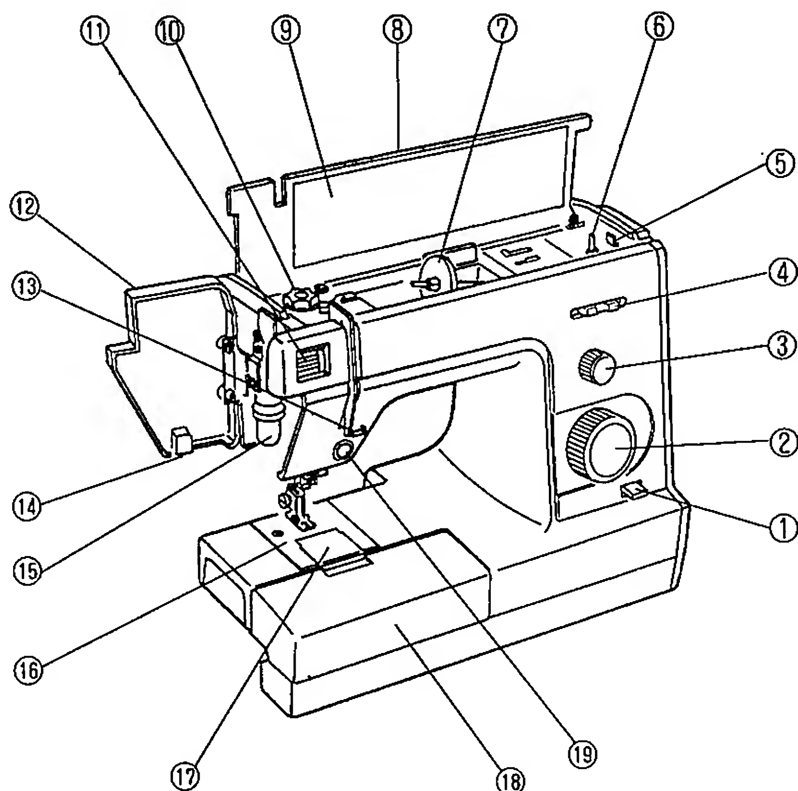
ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

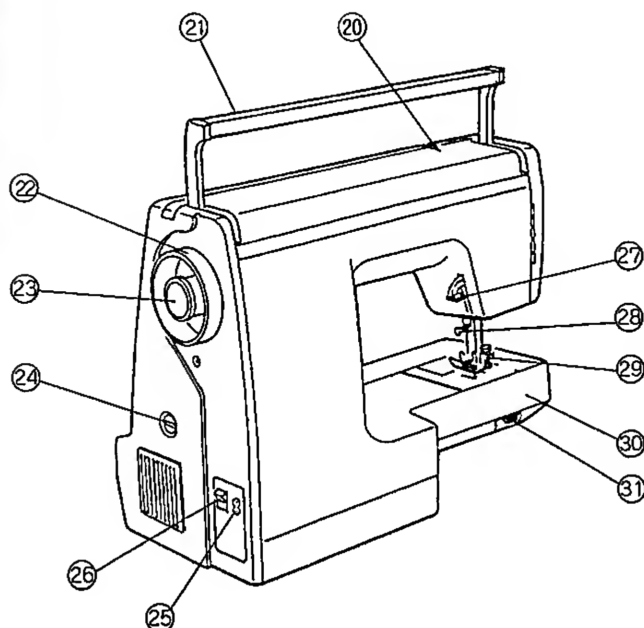
目　次

●各部の名まえ

1. 返し縫いレバー
2. 模様選択ダイヤル
3. 送りダイヤル
4. スピードコントロールつまみ
5. ボビン押え
6. 糸巻き軸
7. 糸こま押え
8. 天板
9. 早見板
10. 押え圧ダイヤル
11. 糸調子ダイヤル
12. 面板
13. 糸案内
14. 糸切り
15. 照明ランプ
16. 針板
17. すべり板
18. 補助テーブル
19. スタート・ストップボタン



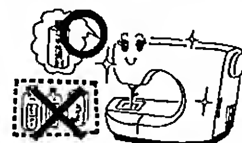
20. 天びん
21. 手さげハンドル
22. はずみ車
23. クラッチつまみ
24. 送り調節ねじ
25. プラグ受け
26. 電源スイッチ
27. 押え上げ
28. 針止めねじ
29. 押えホルダー
30. フリーアーム
31. ドロップレバー



●おとり扱いについてのお願い

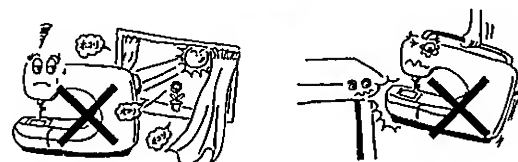
◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

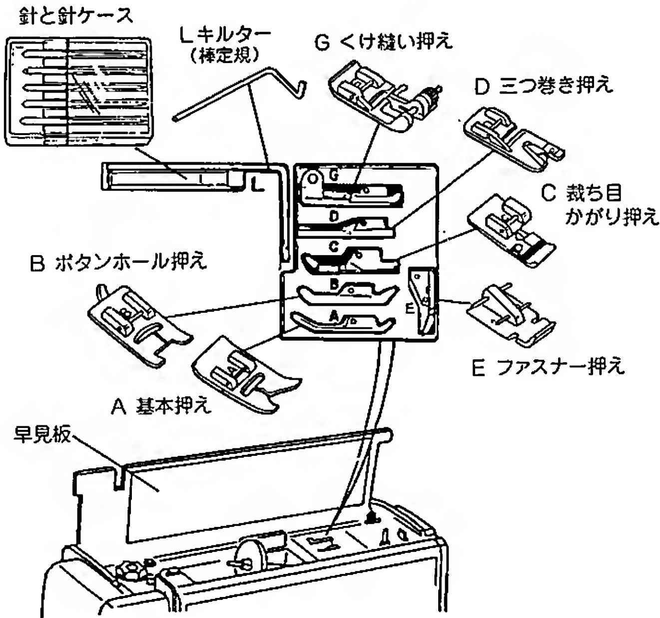
① 長時間日光に当てないでください。
② 湿気やほこりの多いところはさけてください。
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



◇ 修理・調整についてのご案内

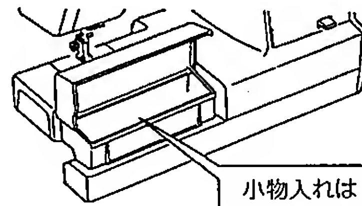
万一不調になったり故障を生じたときは、
「ミシンの調子が悪いときの直し方」（17～18ページ）により点検・調整を行ってください。

●押えと早見板



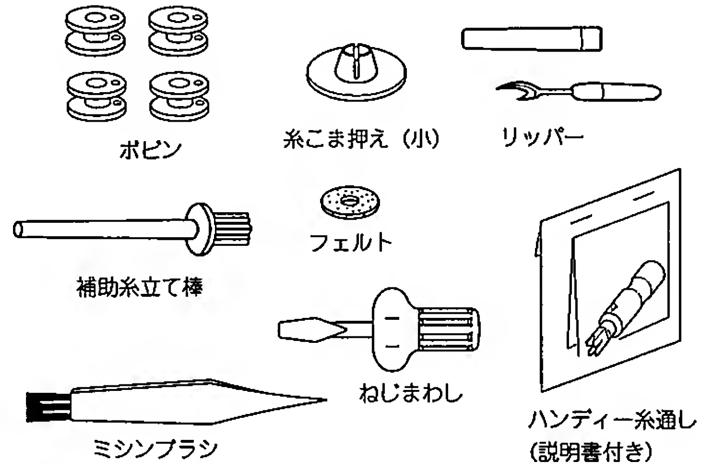
ミシンのセットや押えを使用するときには、早見板を利用されると便利です。

●小物入れ

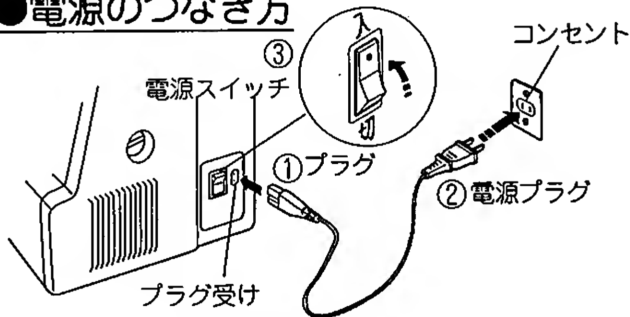


小物入れは、標準付属品等を収納するために使います。

●標準付属品

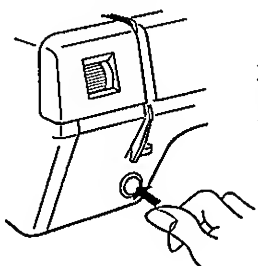


●電源のつなぎ方



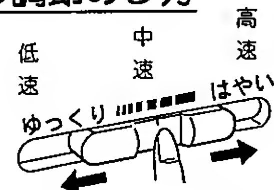
①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けに差し込みます。
②電源プラグをコンセントに差し込みます。
③スイッチを「入」にします。
※電源は一般家庭用 100V 50/60Hz です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

●スタート・ストップボタン



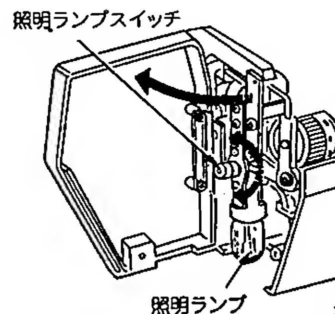
ボタンを押すと、ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

●速さの調節のし方



ミシンのスピードは、スピードコントロールつまみで調節します。
低速（ゆっくり）から高速（はやい）まで自由にセットできますので、お好みの速さにセットしてください。

●照明ランプ

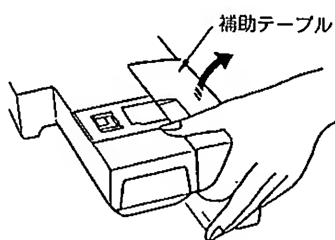


〈つけ方、消し方〉
面板をひらいて、スイッチつまみをまわします。

〈照明ランプのとりかえ方〉
はずすとき………左へまわす
つけるとき………右へまわす

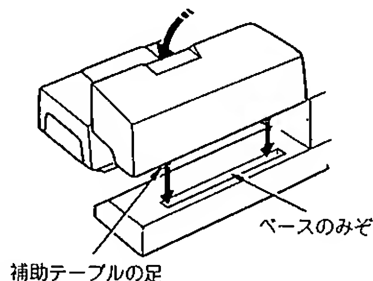
※照明ランプのとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

●補助テーブル



《はずし方》

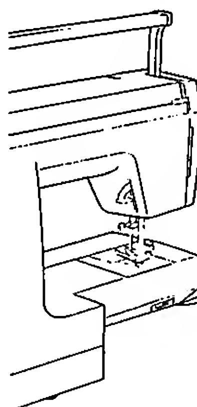
補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。



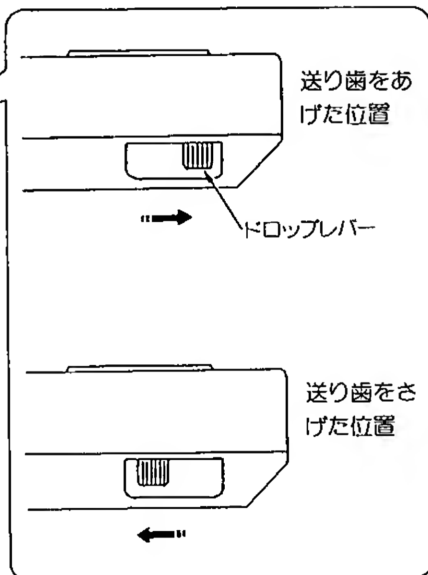
《つけ方》

ベースのみぞに補助テーブルの足を合わせてのせ、上から軽く押します。

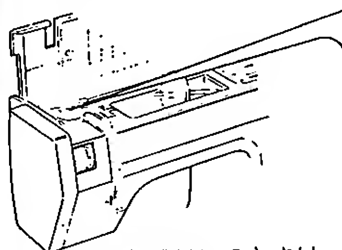
●ドロップレバー

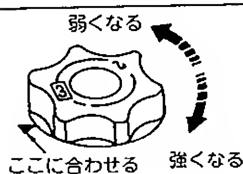


ボタンつけなどで送り歯をさげるときには、ドロップレバーを動かします。



●押え圧ダイヤル

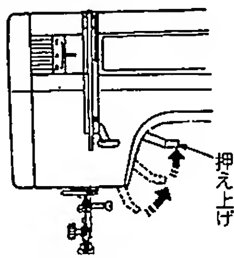




○普通縫いのときは……………………「3」

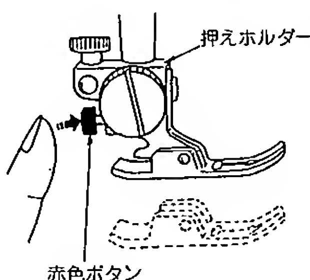
○うす手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれがするとき、または、アップリケなど縫いしろ部分が重なり合うとき……………「2」または「1」

●押え上げ



押え上げをふつうにあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

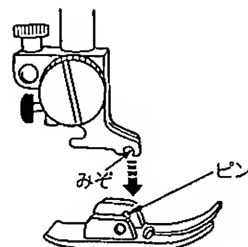
●押えのはずし方、つけ方



《はずし方》

押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

※押えを、無理に引いて、はずさないでください。

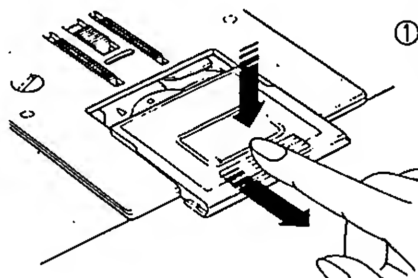


《つけ方》

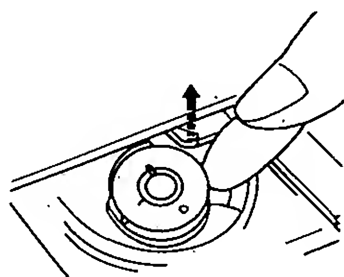
押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

※ファスナー押えのつけ方は、ファスナーづけ(12ページ)をごらんください。

●ボビンのとり出し方

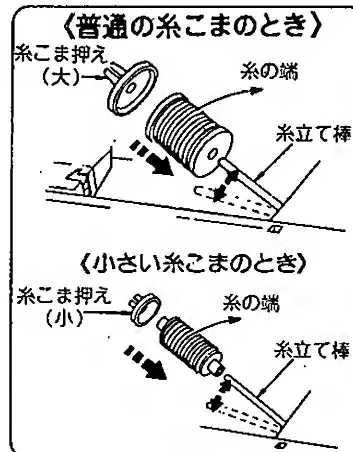


①すべり板の手前を押しながら引いて、すべり板をはずします。



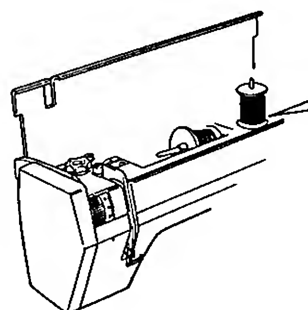
②ボビンをとり出します。

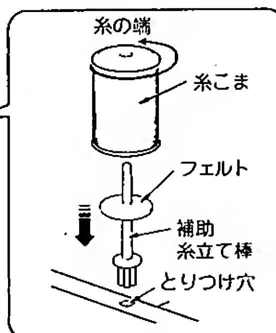
●糸こまのとりつけ方



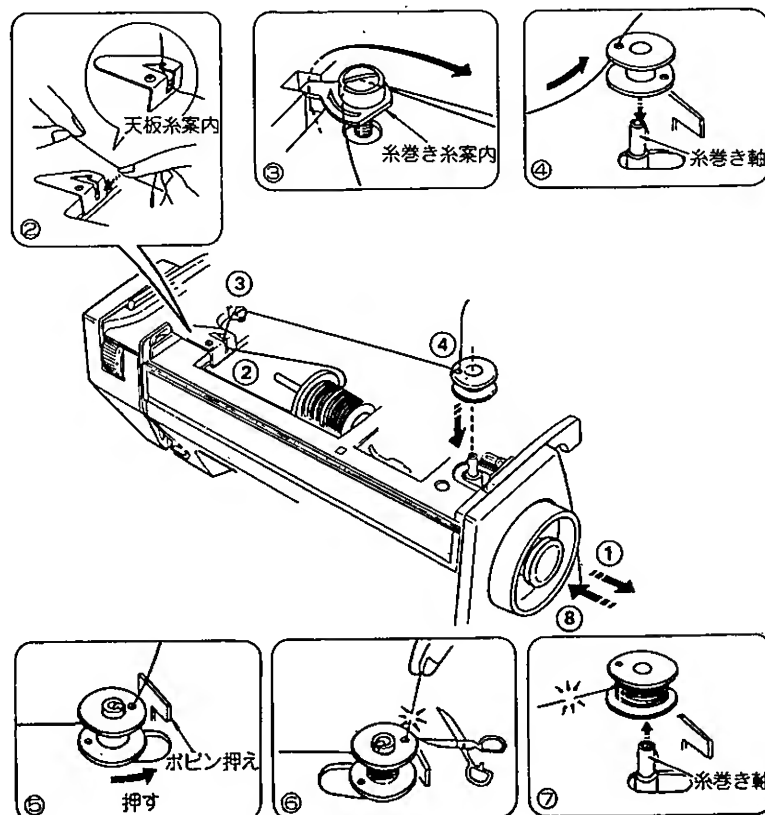
糸立て棒を軽くおこし糸の端が向こう側に出るようにして糸こまを入れます。
糸こま押えで糸こまをおさえたら、糸立て棒をもとに戻します。

※補助糸立て棒を使うときは、とりつけ穴に立てて、糸こまをとりつけます。





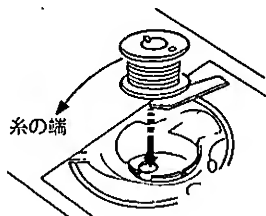
●ボビンに下糸を巻くには



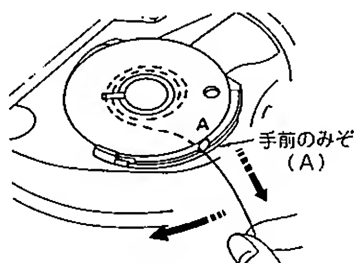
①クラッチつまみを引き出します。
②糸こまから引き出した糸を、天板糸案内に押しつけるようにして、掛けます。
③糸巻き糸案内に糸を掛けます。
④ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。
⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。
※糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

⑥糸の端をつまんだまま、ミシンを動かしてボビンに糸を巻きはじめます。ボビンに糸が三重ぐらい巻きついたら、いったんミシンを止めて糸を切ります。
⑦ふたたびミシンを動かして、糸を巻きおわったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。
⑧クラッチつまみを押しこみます。

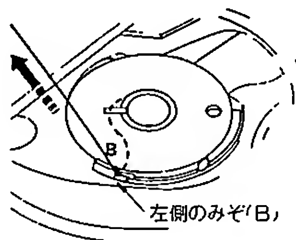
●ボビンをかまに入れるには



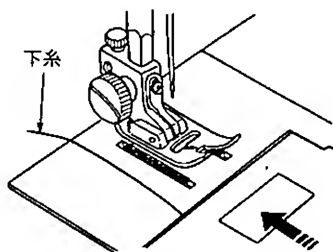
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ(A)に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、左へ移動させます。

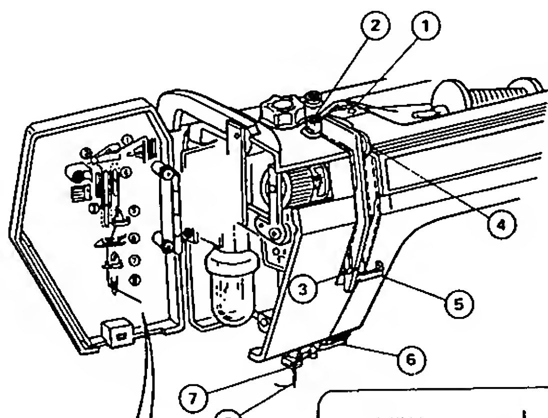


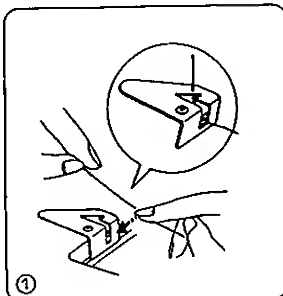
③糸を左側のみぞ(B)に掛けるようにして向こう側に出します。

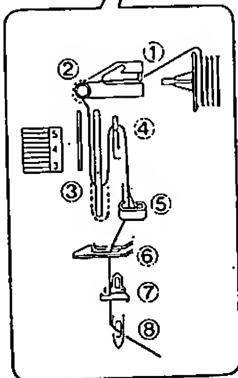


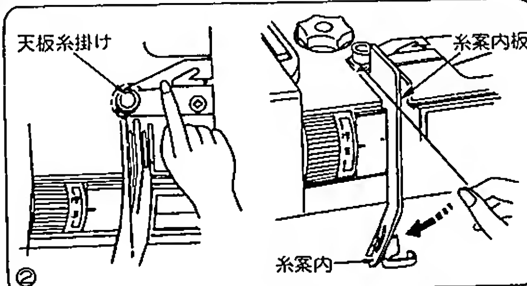
④下糸を10cmくらい引き出して、すべり板をしめます。

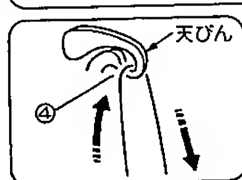
●上糸を掛けるには

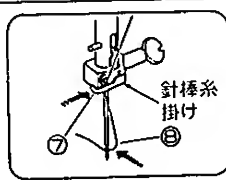








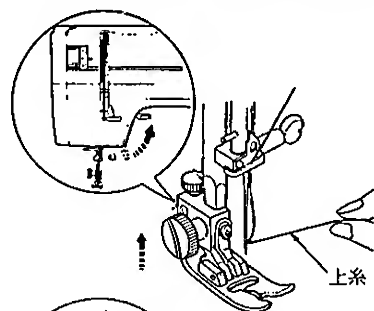




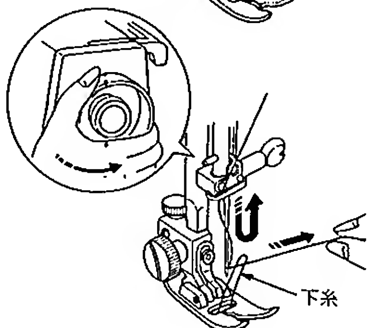
押え上げをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸こまを押えながら、正しく糸を掛けてください。

①糸こまから引き出した糸を、下に押しこむようにして、天板糸案内に掛けます。
②糸を指先で軽く押え、天板糸掛けの下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。
③糸案内の下をまわして、右上に引きあげます。
④天びんに、左からうしろへまわして右手前に出し、まっすぐ下におろします。
⑤糸掛け(上)に右から左に掛けます。
⑥糸掛け(下)に左から右に掛けます。
⑦針棒糸掛けに左から掛けます。
⑧針に糸を、手前から向こう側に通します。
※付属の糸通し器をご使用ください。

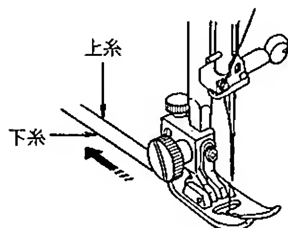
●下糸を引きあげるには



①押え上げをあげ、左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持ちます。



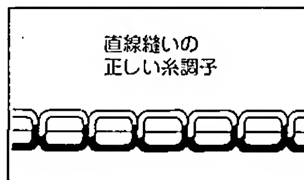
②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげます。天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。



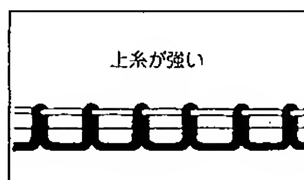
③上糸と下糸を、押えの下から向こう側に10cmほど引き出して、そろえておきます。

●糸調子を出すには

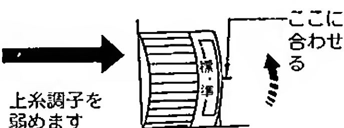
素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。
糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

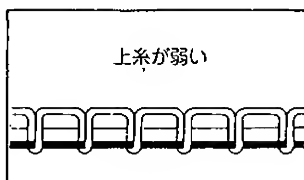


上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。

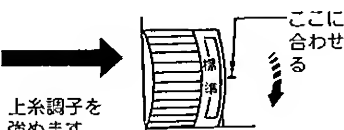


布の上に下糸が出ます。





布の下に上糸が出ます。



●布と糸と針の関係

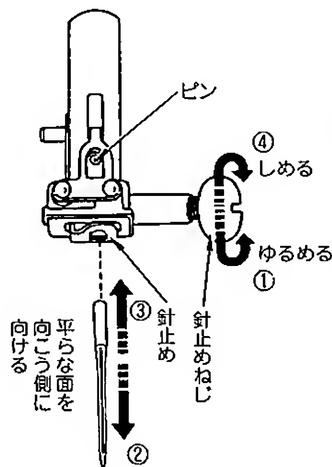
布に適した糸と針の目安			
布		糸	針
うすい布	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガンジー、ジョーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
普通の布	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14 番
厚い布	デニム、ツイード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

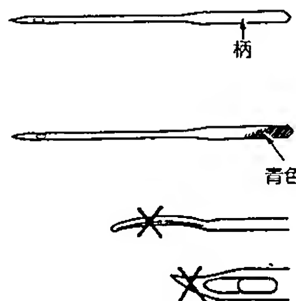
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。

●針のはずし方、つけ方



①針止めねじを手前にまわしてゆるめます。
②針をはずします。
③針の柄の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさしこみ、奥いっぱいに、ピンにあたるまで入れます。
④針止めねじを、向こう側にまわして、かたくしめます。



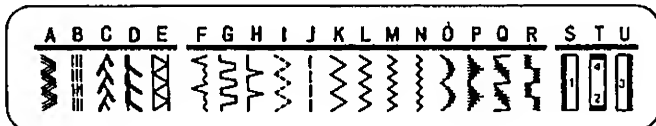
《針の選び方》

■針の太さを示す番号は、柄に表示してあります。
数字が大きくなれば太くなります。

■ブルー針は、柄の部分が青色をしています。

※針の全体が曲がってしまったものや、針先がつぶれたり曲がったりしたものは、使用しないでください。

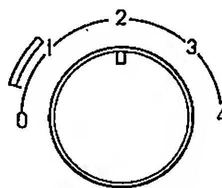
●模様選択ダイヤル



針を最上部にあげて模様選択ダイヤルをまわし、縫い目を選びます。

※針をさげたままで、模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

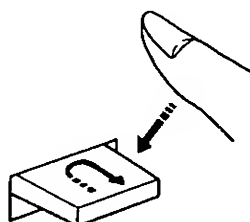
●送りダイヤル



送りダイヤルをまわして、縫い目のあらさをセットします。

模様選択ダイヤルを直線縫いに合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、送り（縫い目のあらさ）は、図のように変化します。

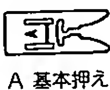
●返し縫いレバー



返し縫いレバーを押している間は、返し縫いをし、指をはなすと；前進縫いにもどります。

●直線縫い

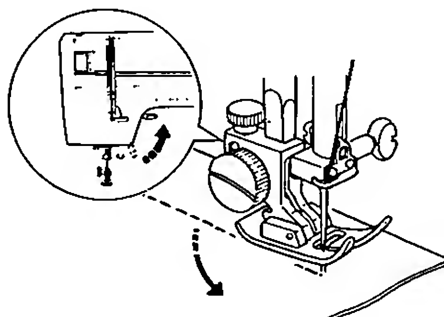
〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル	2～6
模様選択ダイヤル	J
送りダイヤル	1.5～4
押　え	 A 基本押え

★縫いはじめ

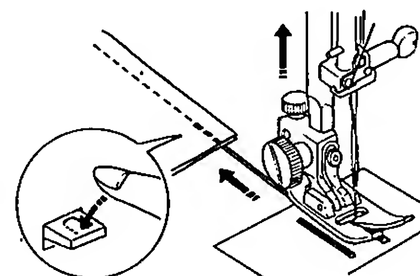
糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

※縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。



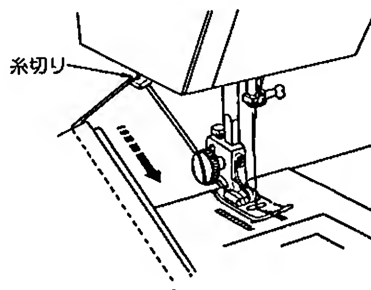
★縫い方向をかえる

ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。



★縫いおわりと糸の切り方

返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。
押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



糸切りで糸を切ります。

●ジグザグ縫い

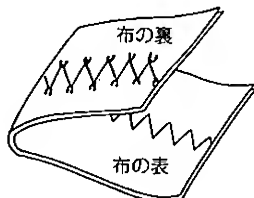
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………2～5

模様選択ダイヤル………………K L M N

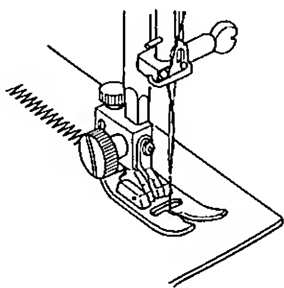
送りダイヤル……………………0.5～4

押　　え……………………………A 基本押え



《ジグザグ縫いの糸調子》

ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。



模様選択ダイヤルで縫い目の巾を、送りダイヤルで縫い目のあらさを調節して縫います。

●ジグザグ縫い裁ち目かがり

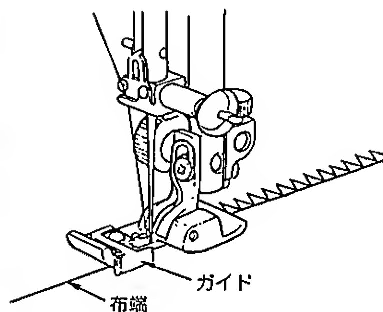
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………標準～7

模様選択ダイヤル………………K（ジグザグ巾最大）

送りダイヤル……………………1～2

押　　え……………………………C 裁ち目かがり押え



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

●かがり縫いステッチ

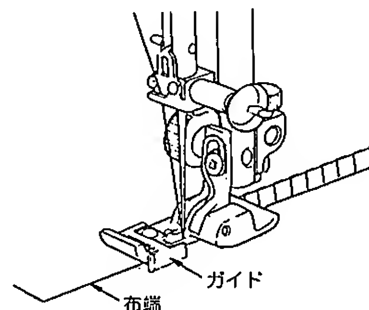
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………………標準～7

模様選択ダイヤル…………………………D

押　　え……………………………………C 裁ち目かがり押え

※送りダイヤルの操作は必要ありません。



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●三重縫い

《セットのめやす》

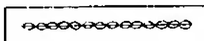
糸調子ダイヤル……………… 2～6

模様選択ダイヤル……………… A B

押　　え……………… A 基本押え

※送りダイヤルの操作は必要ありません。

★直線三重縫い



補強縫い、飾り縫いとして使います。

★ジグザグ三重縫い



飾り縫いに使います。

※布が前後しますので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●トリコットステッチ

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………… 標準～6

模様選択ダイヤル………………

送りダイヤル……………… 0.5～1.5

押　　え……………… A 基本押え

縫い目

この縫い目で布のへりをかがると、布のほつれ止めや、かえり防止に効果があります。また、伸びやすい布どうしのはぎ合わせにも活用できます。

※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●ボタン穴かがり

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………… 1～標準

模様選択ダイヤル……………… S → T → U → T

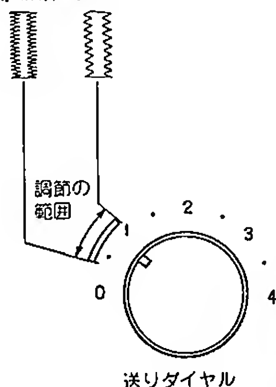
送りダイヤル……………… 0.3～1（　の範囲）

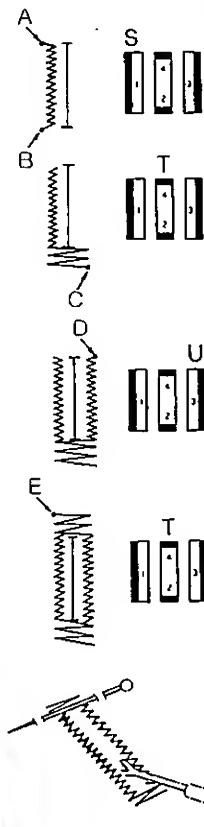
押　　え……………… Bボタンホール押え

※縫うものと同じ布で、試し縫いをして、確かめてから縫ってください。

※伸縮性のある布には、布の裏に伸びにくい芯地をはってください。

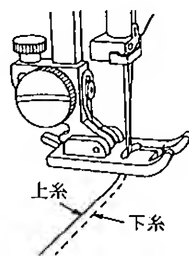
※ボタン穴の位置と大きさをチャコでしるしをつけてください。





《縫い方》

①模様 S を選びます。
上糸・下糸を左横へ10cmほど引き出しておき、縫いはじめの位置（A点）に針をさして押え上げをおろし、左側を必要な長さ（B点）まで縫います。



②針をあげて模様 T を選び、かんぬきを5針くらい（C点まで）縫い、ミシンを止めます。

③針をあげて、模様 U を選び、左側と同じ長さ（D点）まで縫い、ミシンを止めます。

④針をあげて、模様 T を選び、かんぬきを5針くらい（E点まで）縫ったら、ミシンを止めて、布から針をあげます。押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすびます。

⑤かんぬきの内側にまち針を縫いさし、リッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

●芯入りボタン穴かがり

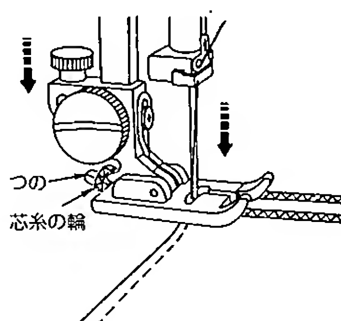
〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………1～標準

模様選択ダイヤル……………… S → T → U → T

送りダイヤル…………………… 0.3～1（　の範囲）

押　　え………………………… Bボタンホール押え

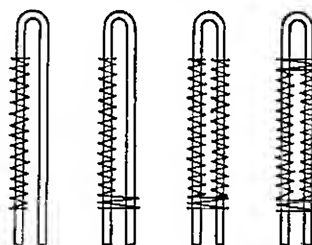


①模様 1 を選びます。

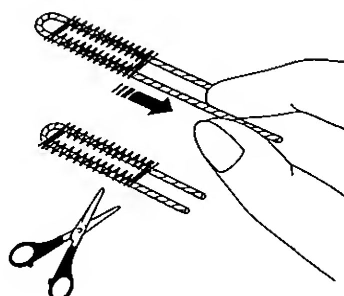
上糸と下糸を横に引き出してそろえます。

芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出します。

縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。



②芯糸を軽く布面に押しつけながら縫います。
縫い方は、10ページを参照してください。



③左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ボタンつけ

〈セットのめやす〉

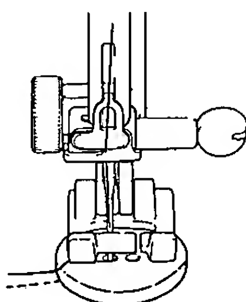
糸調子ダイヤル……………………標準～7

模様選択ダイヤル………………K ※ボタンの穴の巾に合わせる

ドロップレバー…………………（送り歯をさげる）

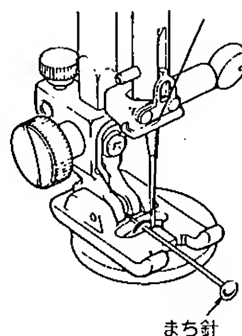
押　　え………………………… B ボタンホール押え

※送りダイヤルの操作は必要ありません。

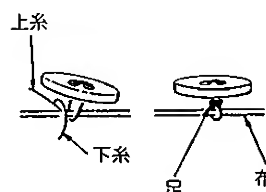


①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。



②押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。
10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。
※縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。



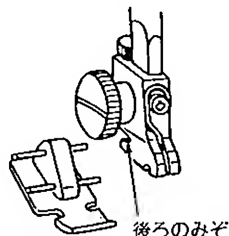
③上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。
※縫いおわったら、ドロップレバーを右に戻して送り歯をあげます。

●ファスナーつけ

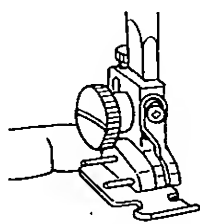
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル	標準～6
模様選択ダイヤル	J
送りダイヤル	1.5～4
押　　え	E ファスナー押え

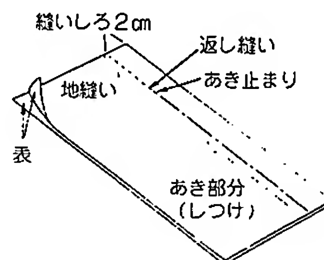
《ファスナー押えのつけ方》



押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。



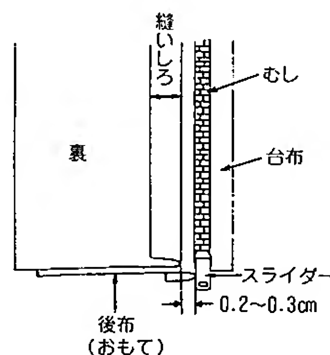
指で軽くささえながら静かに押え上げをさげます。



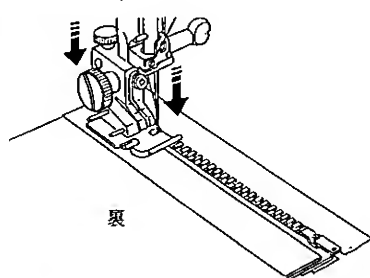
《準　備》

○布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

○あき部分は、しつけをします。

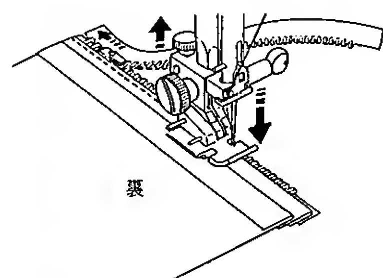


上の布の縫いしろを縫い目の線で折り返します。下の布の縫いしろは、ファスナーの台布がかくれるように、後布の縫いしろを出来あがり印から0.2～0.3cm持ち出します。さらに、折り山を、ファスナーのむしのきわにのせます。

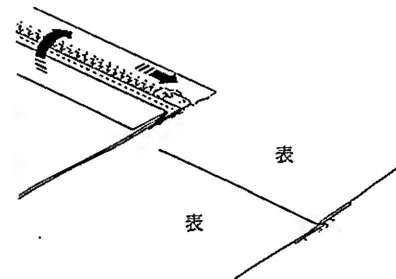


《縫い方》

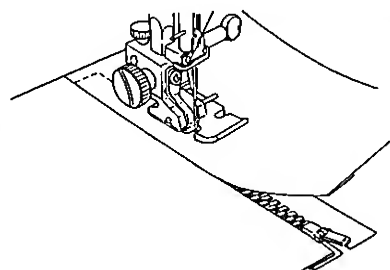
①押えのピンの右を押えホルダーにとりつけます。縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。



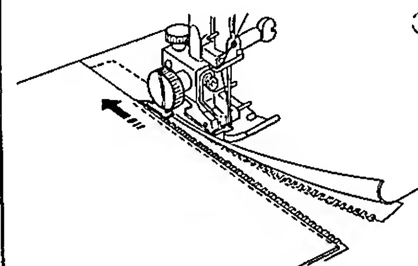
②押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。
はずみ車をまわして針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。



③スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。



④押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
押えがスライダーにあたる手前でミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。



⑤スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

●くけ縫い

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………1～標準

模様選択ダイヤル……………………F

送りダイヤル……………………1～3

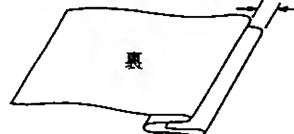
押　　え……………………



G くけ縫い押え

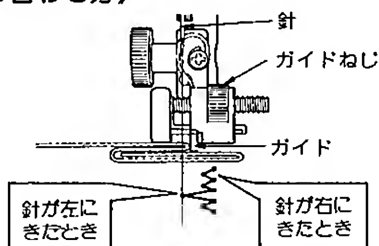
《布の折り方》

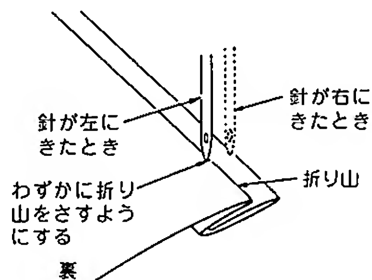
うすい布、普通の布の場合 0.4～0.7cm　かたい布、厚い布の場合 0.4～0.7cm



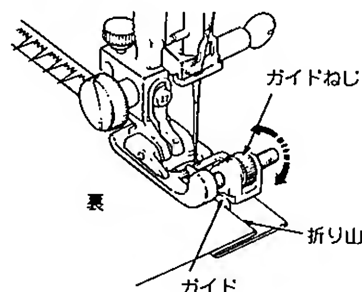


《ガイドの合わせ方》





①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。



②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

●三つ巻き縫い

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………標準～6

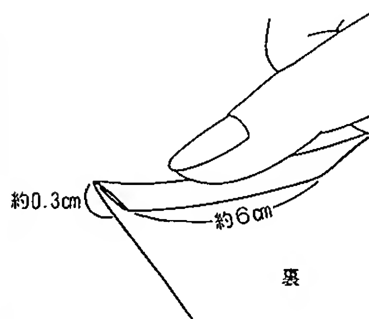
模様選択ダイヤル……………………J

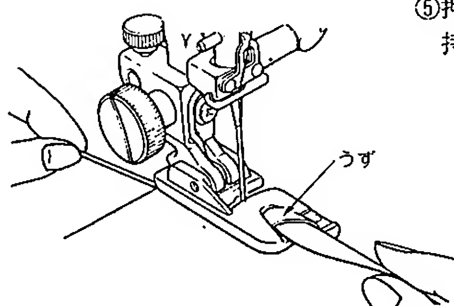
送りダイヤル……………………1.5～4

押　　え……………………



D 三つ巻き押え





《縫い方》

①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りまげます。

②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2cm縫います。

④はずみ車をまわして針をさし、押え上げをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。

⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。

●スーパー模様縫い

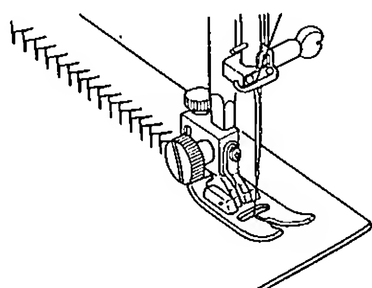
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………………1～標準

模様選択ダイヤル…………………………A C D E

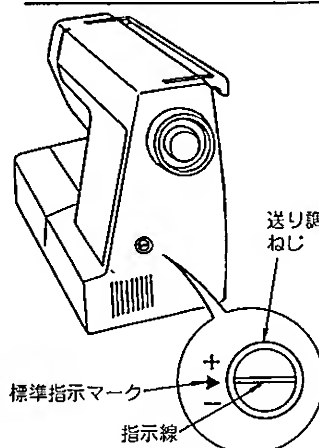
押　　え………………………………A 基本押え

※送りダイヤルの操作は必要ありません。



布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

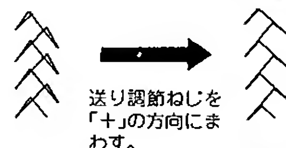
●スーパー模様の形の整え方



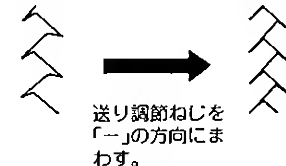
布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

模様がつまっているとき　　形が整う。



模様が伸びているとき　　形が整う。



●密着模様縫い

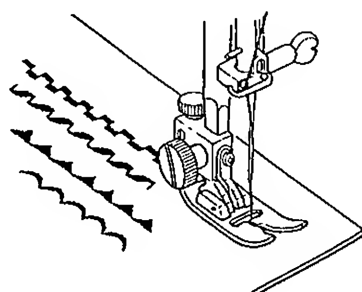
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル……………………………1～標準

模様選択ダイヤル…………………………O P Q R

送りダイヤル………………………………0.5～1

押　　え………………………………A 基本押え



※布が縮むときは、下に紙を敷いて縫うと、きれいに仕上がります。

●スモッキング

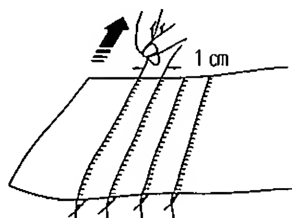
《セットのめやす》

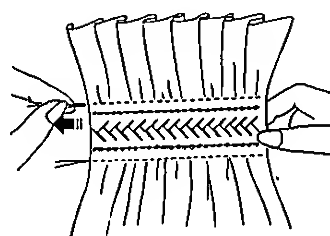
糸調子ダイヤル……………………………1～標準

模様選択ダイヤル…………………………B C

押　　え………………………………A 基本押え

※送りダイヤルの操作は必要ありません。





①上糸調子を弱くして縫い目のあらさ0.3～0.4㎝の直線を、1㎝の間かくで数本縫います。

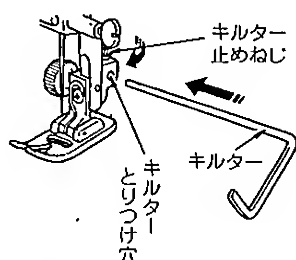
②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

③直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

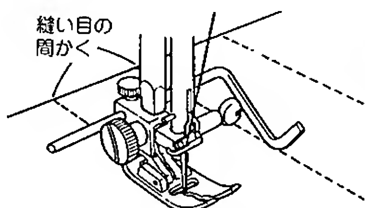
●キルティング

〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………標準～6
模様選択ダイヤル……………………J
送りダイヤル……………………1.5～4
押　え……………………A 基本押え ＋ Lキルター（棒定規）



キルター止めねじをゆるめて、キルター（棒定規）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

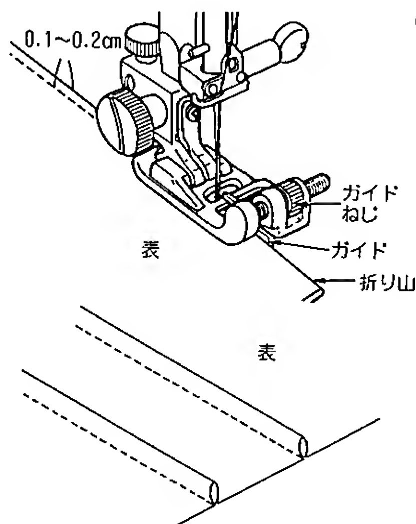


キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●ピンタック

〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………2～6
模様選択ダイヤル……………………J
送りダイヤル……………………1.5～3
押　え……………………G くけ縫い押え



①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1～0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

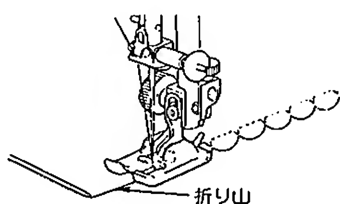
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

●シェルタック

〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………標準～9
模様選択ダイヤル……………………H
送りダイヤル……………………2～3
押　え……………………B ボタンホール押え

※糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調節します。



①うす手の布をバイアスに2つ折りにし、右側を輪（わ）にして押えの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。

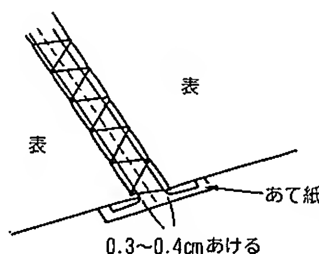
②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

●ファゴティング

〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………1～標準
模様選択ダイヤル……………………E G
送りダイヤル……………………0.5～1.5
押　え……………………A 基本押え

※模様 のときは、送りダイヤルの操作は必要ありません。



①布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

②布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。

③あて紙をとります。

●アップリケ

〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………1～標準

模様選択ダイヤル…………………K

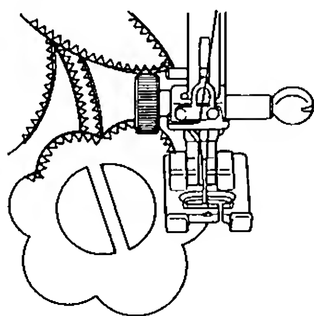
送りダイヤル………………………0.5～1

押　　え……………



B ボタンホール押え

押え圧ダイヤル……………………2



アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

※急角度のところで向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

※縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻してください。

●パッチワーク

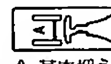
〈セットのめやす〉

糸調子ダイヤル……………………1～標準

模様選択ダイヤル…………………I　C

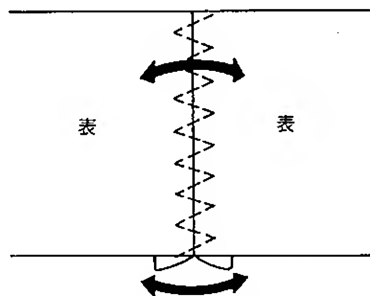
送りダイヤル………………………0.5～1.5

押　　え……………



A 基本押え

※模様 のときは、送りダイヤルの操作は必要ありません。



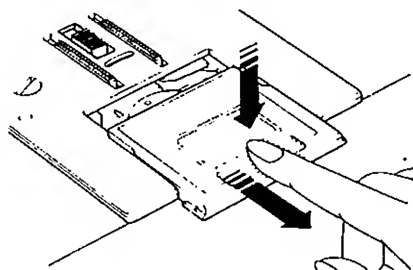
布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。

布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

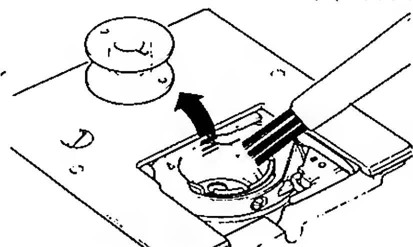
使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

※手入れのときには、針をあげて、コンセントから電源プラグを抜いてください。

●かまの掃除

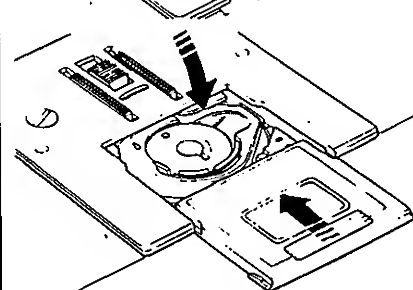


①すべり板の手前を押しながら引いて、すべり板をはずします。



②ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。

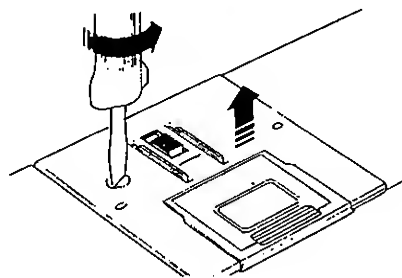
※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。



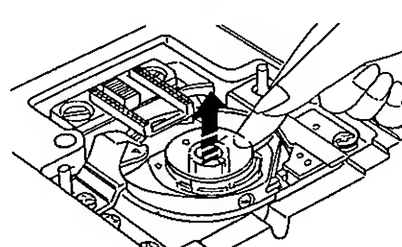
③ボビンを入れます。

④すべり板をのせ矢印の方向へ押して、つけます。

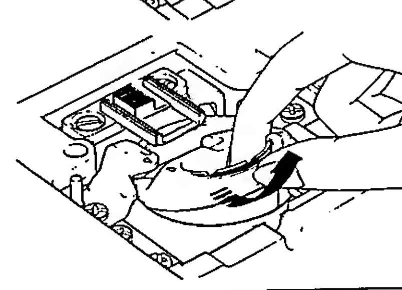
●かまの分解



①針と押えをはずします。針板しめねじをはずし、針板をはずします。

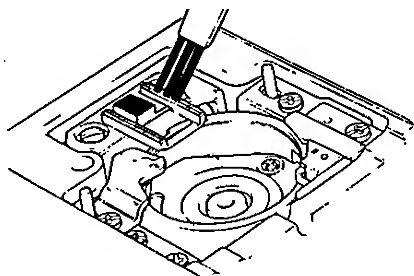


②ボビンをとり出します。

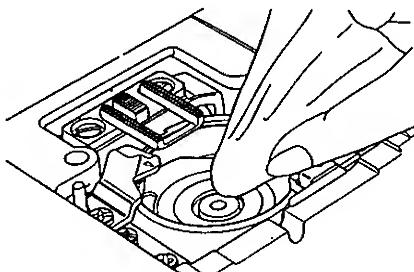


③内がまの手前を上に引きながらはずします。

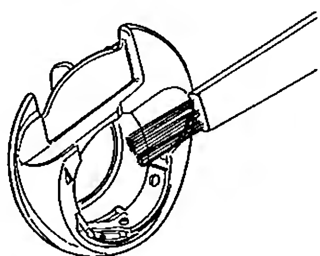
●かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

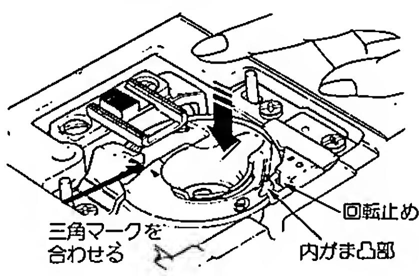


②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

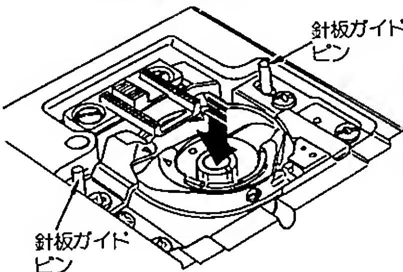


③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

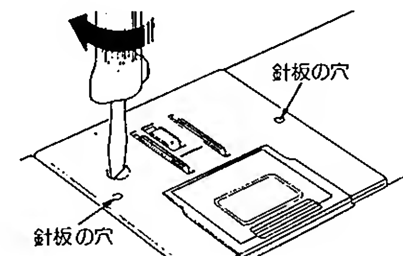
●かまの組立て



①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るように、内がまをとりつけます。



②ボビンを入れます。



③2か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

※手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪いとき	その原因	なおし方
縫い目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 伸縮性のある布や目のつんだ布にブルー針を使っていない。 4. 上糸の掛けかたがまちがっている。 5. 押え圧が弱い。	針を交換するか正しくつけなおす。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。 上糸を正しく掛けなおす。 押え圧を強める。
縫い目がしわになる。	1. 上糸の調子が強すぎる。 2. 押え圧が合っていない。 3. 布に対して縫い目が細かすぎるか、あらすぎる。 4. 上糸・下糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	糸調子を適切にする。 押え圧を適切にする。 送りダイヤルを適切にセットする。 糸を正しく掛けなおす。
縫い目に輪ができる。	1. 上糸の調子が合っていない。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 上糸や下糸の掛けかたがまちがっている。	糸調子を適切にする。 適切な針や糸を選ぶ。 糸を正しく掛けなおす。
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. 押え圧が弱い。 3. 縫い目が細かすぎる。	送り歯を掃除する。 押え圧を強める。 送りダイヤルを適切にセットする。
音が高い。	1. 送り歯やかまに、ごみや糸くずがたまっている。	掃除する。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪いとき	その原因	なおし方
上糸が切れる。	1. 上糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	上糸を正しく掛けなおす。
	2. 上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱める。
	3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。	針を交換する。
	4. 針のつけかたがまちがっている。	正しくつける。
	5. 針板の針穴や、押え、かまなどに傷がついている。	傷のついている部品を交換する。
	6. 縫いおわったとき、布を横や手前の方向に引いた。	向こう側に引く。
	7. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。	適切な針や糸を選ぶ。
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。	正しく通しなおす。
	2. 内がまの中に、ごみがたまっている。	内がまを掃除する。
	3. ボビンに傷があり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する。
針が折れる。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。	針を交換するか正しくつけなおす。
	2. 針を布にさしたままで、もようダイヤルをまわした。	針を布より上にあげてからダイヤルをまわす。
	3. 布を無理に引いた。	布を無理に引かない。
	4. 布に対して針が細すぎる。	針を交換する。
	5. 上糸の掛けかたがまちがっていたり、ミシン操作がまちがっている。	正しいやりかたでなおす。

※この「ミシンの調子が悪いとき」に書かれている方法で直らないときは、お買上げの販売店へご連絡ください。

仕　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	60W/ランプ 12W
外形寸法	幅41cmX奥行18cmX高さ30cm
重　量	8.0Kg（本体）
使用針	家庭用　HAX1
縫速度	毎分800回転

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国１８０の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。

★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかって便利です。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎03(3277)2200
〒104-8311東京都中央区京橋3-1-1

仙台支店　☎022(249)4161
〒982-0011　宮城県仙台市太白区長町5-3-25

富山支店　☎0764(31)8827
〒930-0029　富山県富山市本町3-25

池袋支店　☎03(3987)5266
〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-28-7

千葉支店　☎043(222)5121
〒260-0012　千葉県千葉市中央区本町1-5-14

名古屋支店　☎052(733)5116
〒466-0027　愛知県名古屋市昭和区阿由知通1-12-3

大阪支店　☎06（6583）8031
〒552-0002　大阪府大阪市港区市岡元町3-1-4

尼崎支店　☎06（6481）2193
〒660-0893　兵庫県尼崎市西灘波町4-6-30

岡山支店　☎086(222)8896
〒700-0814　岡山県岡山市天神町1-26

観音寺支店　☎0875(25)2887
〒768-0060　香川県観音寺市駅通り甲1017-5

福岡西新支店　☎092(821)6495
〒814-0002　福岡県福岡市早良区西新2-6-2

(株) ジャノメ北海道販売
札幌本店　☎011(861)5634
〒003-0027　札幌市白石区本通3丁目北1-21

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。



東京都中央区京橋3−1−1 蛇の目ミシン工業(株)

685−800−423